

再生可能エネルギー発電設備等導入基盤整備支援事業費補助金（福島県再エネ復興支援事業）  
交付要綱

（目的）

第1条 この要綱は、再生可能エネルギー発電設備等導入基盤整備支援事業実施要領（20150305財資第18号。以下「実施要領」という。）第3の2.に基づき、福島県知事（以下「知事」という。）が行う、再生可能エネルギー発電設備等導入基盤整備支援事業費補助金（福島県再エネ復興支援事業）（以下「補助金」という。）の交付の手續等を定め、もってその業務の適正かつ確実な処理を図ることを目的とする。

（適用範囲）

第2条 知事が行う補助金の交付は、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律（昭和30年法律第179号）及び補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律施行令（昭和30年政令第255号）並びに実施要領並びに福島県補助金等の交付等に関する規則（昭和45年福島県規則第107号。以下「規則」という。）に定めるところによるほか、この要綱による。

（交付の対象）

第3条 知事は、民間事業者、非営利民間団体及び地方公共団体等が策定した再生可能エネルギー発電設備等導入計画（以下「実施計画書」という。）が、別記の要件を満たしていると認められる場合に、当該実施計画書に係る事業（以下「補助事業」という。）の実施に必要な経費のうち、補助金交付の対象として知事が認める経費（以下「補助対象経費」という。）に対して、予算の範囲内で補助金を交付する。ただし、別紙 暴力団排除に関する誓約事項に記載されている事項に該当する者が行う事業に対しては、本補助金の交付の対象としない。

2 交付の対象となる補助事業は、避難解除区域等（別表第1に定める地域をいう。）において、再生可能エネルギー発電設備（以下「発電設備」という。）及びそれに付帯する蓄電池及び送電線等（以下「蓄電池及び送電線」という。）を導入する事業とし、補助対象経費の区分は、別表第2のとおりとする。

3 発電設備並びに蓄電池及び送電線の規模要件は別表第3のとおりとする。

（補助金の額）

第4条 前条に規定する補助金の額は、発電設備については補助対象経費の合計額の10分の1以内（ただし、上限を3億円とする。）とし、蓄電池及び送電線については補助対象経費の3分の2以内（ただし、上限を7億円とする。）とする。ただし、福島県内に本社を有する中小企業が導入する発電設備については補助対象経費の5分の1以内（ただし、上限を6億円とする。）とする。

なお、中小企業とは、中小企業基本法（昭和38年法律第154号）第2条に規定するものをいう。

（交付の申請）

第5条 補助金の交付を申請しようとする民間事業者、非営利民間団体及び地方公共団体等（以下「事

業者」という。)は、知事に対し、様式第1による補助金交付申請書(正本1通及び副本1通)に実施計画書及びその他知事が指示する書類を添付して、知事が指示する期日までに提出しなければならない。

- 2 事業者は、前項の補助金の交付の申請をするに当たっては、当該補助金に係る消費税及び地方消費税に係る仕入控除税額(補助対象経費に含まれる消費税及び地方消費税相当額のうち、消費税法(昭和63年法律第108号)の規定により仕入れに係る消費税額として控除できる部分の金額及び当該金額に地方税法(昭和25年法律第226号)の規定による地方消費税の税率を乗じて得た金額の合計額に補助率を乗じて得た金額をいう。以下「消費税等仕入控除税額」という。)を減額して申請しなければならない。ただし、申請時において当該消費税等仕入控除税額が明らかでないものについては、この限りでない。

#### (交付の決定)

第6条 知事は、前条の規定による補助金交付申請書の提出があったときは、当該申請に係る書類の審査及び必要に応じて行う現地調査等により、補助金を交付すべきものと認めるときは速やかに補助金の交付の決定を行い、様式第2による補助金交付決定通知書により事業者に通知するものとする。この場合において、知事は、補助金の適正な交付を行うために必要があると認めるときは、補助金の交付の申請に係る事項につき修正を加えて通知を行うものとする。

- 2 知事は、前項の通知に際して、必要な条件を付することができるものとする。
- 3 知事は、補助金の交付が適当でないとして認めるときは、その旨を事業者に通知するものとする。

#### (交付の条件)

第7条 知事は、補助金の交付を決定する場合において、当該交付の決定を受けた事業者(以下「補助事業者」という。)に対し、次に掲げる事項につき条件を付するものとする。

- 一 補助事業者は、補助金の交付の決定の内容及びこれに付した条件に従い、善良なる管理者の注意をもって補助事業を行わなければならないこと。
- 二 補助事業者は、補助事業が予定の期間内に完了することができないと見込まれる場合又は補助事業の遂行が困難となったときは、速やかに様式第3による遅延等報告書を知事に提出し、その指示を受けなければならないこと。
- 三 補助事業者は、第9条第1項各号のいずれかに該当するときは、あらかじめ知事の承認を受けなければならないこと。
- 四 補助事業者は、補助事業の実施に関し契約をする場合において、補助事業の運営上競争入札によることが著しく困難又は不相当である場合を除き、競争入札等によらなければならないこと。
- 五 補助事業者は、知事が補助事業に係る実績の報告等を受け、その報告等に係る補助事業の実績が補助金の交付の決定の内容及びこれに付した条件に適合しないと認めるときは、知事の指示に従わなければならないこと。
- 六 補助事業者は、知事が第17条第1項の規定による補助金の交付の決定の全部若しくは一部を取消したときは、これに従わなければならないこと。
- 七 補助事業者は、知事が第14条第3項の規定による補助金の返還を請求したときは、知事が指定する期日までに返還しなければならないこと。この場合において、当該期日までに返還しなかったときは、第14条第6項の規定に基づく延滞金を納付しなければならないこと。

- 八 補助事業者は、知事が第17条第4項の規定による補助金の全部又は一部の返還を請求したときは、知事が指定する期日までに返還するとともに、第17条第5項の規定に基づき、加算金を併せて納付すべきこと。この場合において、当該期日までに返還しなかったときは、第17条第6項の規定に基づく延滞金を納付しなければならないこと。
- 九 補助事業者は、知事が補助事業の適正な遂行に必要な範囲において報告を求め、又は現地調査等を行おうとするときは遅滞なくこれに応じなければならないこと。
- 十 補助事業者は、補助事業の実施により取得し、又は効用の増加した財産（以下「取得財産等」という。）については、善良なる管理者の注意を持って管理し、その管理に係る台帳を備え、その管理状況を明らかにしておくとともに、取得財産等を処分（補助金の交付の目的に反して使用し、譲渡し、交換し、廃棄し、貸し付け、又は担保に供することをいう。）しようとするときは、あらかじめ知事の承認を受けなければならないこと。
- 十一 補助事業者は、第20条第3項及び第21条第4項の規定に基づく取得財産等の処分により収入が生じたときは、知事の請求に応じ、その収入の全部又は一部を納付しなければならないこと。
- 十二 補助事業者は、第8条の規定に基づく当該交付の決定に係る申請の取下げをしようとするときは、知事に報告しなければならないこと。
- 十三 補助事業者は、補助事業終了後、知事の求めに従い、補助事業の効果等を報告しなければならないこと。

（申請の取下げ）

第8条 補助事業者は、第6条第1項の規定による交付決定の通知を受けた場合において、交付の決定の内容又はこれに付された条件に不服があり、交付の申請の取下げをしようとするときは、交付の決定の通知を受けた日から起算して10日以内に様式第4による交付申請取下げ届出書を知事に提出しなければならない。

（計画変更の承認）

- 第9条 補助事業者は、次の各号のいずれかに該当するときは、あらかじめ様式第5による変更（中止・廃止）承認申請書を知事に提出し、その承認を受けなければならない。
- 一 補助事業の内容を変更しようとするとき。ただし、次に掲げる軽微な変更を除く。
- ア 補助目的に変更をもたらすものではなく、かつ、より能率的な補助目的に資するものと考えられる場合
  - イ 補助目的及び事業能率に関係がない事業計画の細部の変更である場合
  - ウ 補助対象経費の20パーセント以内の減額
- 二 補助対象経費の区分ごとに配分された額を変更しようとするとき。ただし、各配分額のいずれか低い額の10パーセント以内で変更する場合を除く。
- 三 補助事業の全部若しくは一部を他に継承しようとするとき。
- 四 補助事業の全部若しくは一部を中止、又は廃止しようとするとき。
- 2 知事は、前項に基づく変更（中止・廃止）承認申請書を受理したときは、これを審査し、当該申請に係る変更（中止・廃止）の内容が適正であると認め、これを承認したときは、その旨を当該補助事業者に通知するものとする。

3 知事は前項の承認をする場合は、必要に応じ交付の決定の内容を変更し、又は条件を付すことができる。

#### (概算払)

第10条 知事は必要があると認めるときは、交付決定を行った額（交付要綱第9条の規定により事業の変更等の承認を受けた場合は、その変更後の額）の8割に相当する額を限度として、概算払をすることができる。

2 補助事業者は、前項の規定により補助金の概算払を受けようとするときは、様式第6による補助金概算払請求書を知事に提出しなければならない。

#### (状況報告)

第11条 補助事業者は、知事が特に必要と認めて指示したときは、その指示した期間に係る補助事業の実施状況を様式第7による実施状況報告書により、知事が指示する期日までに知事に提出しなければならない。

#### (実績報告)

第12条 補助事業者は、補助事業が完了したとき（補助事業の中止又は廃止の承認を受けたときを含む。）は、完了の日（補助事業の中止又は廃止の承認を受けたときは、その承認の通知を受けた日）から起算して30日以内又は当該補助事業の完了した日の属する年度の3月末日のいずれか早い日までに、様式第8による補助事業実績報告書（正本1通及び副本1通）を知事に提出しなければならない。

2 補助事業者は、補助事業が3月末日までに終了しない見込みのときは、3月末日までに、様式第9による補助事業年度末実績報告書（正本1通及び副本1通）を知事に提出しなければならない。

3 補助事業者は、第1項及び第2項の実績報告を行うに当たって、補助金に係る消費税等仕入控除税額が明らかな場合には、当該消費税等仕入控除税額を減額して報告しなければならない。

4 補助事業者は、第1項又は第2項の場合において、やむを得ない理由によりその提出が遅延するときは、あらかじめ知事の承認を受けなければならない。

#### (補助事業の継承)

第13条 補助事業者について相続、法人の合併又は分割等により補助事業を行う者が変更される場合において、その変更により事業を継承する者が当該補助事業を継承して実施しようとするときは、様式第10による承継承認申請書をあらかじめ知事に提出し、知事の承認を受けなければならない。

#### (補助金の額の確定等)

第14条 知事は、第12条第1項の補助事業実績報告書を受理したときは、当該報告に係る書類の審査及び必要に応じて行う現地調査等により、その報告に係る補助事業の成果が補助金の交付の決定の内容（第9条第1項の規定に基づく承認をしたときは、その承認された内容）及びこれに付された条件に適合すると認めたときは、交付すべき補助金の額を確定し、当該補助事業者に速やかに通知するものとする。

2 前項の補助金の額の確定は、配分された補助対象経費の区分ごとの実支出額に補助率を乗じて得

た額と、これらに対応する交付決定された補助金の額（変更された場合は、変更された額）とのいずれか低い額の合計額とする。

- 3 補助事業者は、知事が補助事業者に交付すべき補助金の額を確定した場合において、既にその額を超える補助金が支払われているときは、知事の指示に従って、その超える部分の補助金を返還しなければならない。
- 4 知事は、前項に基づき補助金の返還を請求しようとするときは、次に掲げる事項を、速やかに当該補助事業者へ通知するものとする。
  - 一 返還すべき補助金の額
  - 二 加算金及び延滞金に関する額
  - 三 納期日
- 5 知事は、補助事業者が第3項の規定による請求を受け、当該補助金を返還したときは、様式第11による返還報告書を提出させるものとする。
- 6 知事は、補助事業者が、返還すべき補助金を第4項第3号に規定する納期日までに納付しなかったときは、納期日の翌日から納付の日までの日数に応じ、その未納付額につき年利10.95パーセントの割合で計算した延滞金を徴収するものとする。

#### （補助金の支払）

- 第15条 知事は、前条第1項の規定により交付すべき補助金の額を確定した後に、補助金を支払うものとする。
- 2 補助事業者は、前項の規定により補助金の支払を受けようとするときは、様式第12による補助金精算払請求書を知事に提出しなければならない。

#### （消費税等仕入控除税額の確定に伴う補助金の返還）

- 第16条 補助事業者は、補助事業完了後に、消費税及び地方消費税の申告により補助金に係る消費税等仕入控除税額が確定した場合には、様式第13による消費税額及び地方消費税額の確定に伴う報告書を速やかに知事に提出しなければならない。
- 2 知事は、前項の報告書の提出があった場合には、当該消費税等仕入控除税額の全部若しくは一部の返還を請求するものとする。
- 3 第14条第6項の規定は、前項の返還を請求する場合において準用する。

#### （交付決定の取消し等）

- 第17条 知事は、第9条第1項第4号の規定による申請があった場合及び次の各号のいずれかに該当すると認められる場合は、第6条第1項の規定による補助金の交付の決定の全部若しくは一部を取消し、又は交付の決定の内容若しくはこれに付した条件を変更することができる。
  - 一 補助事業者が法令、実施要領、本要綱又は本要綱に基づく知事の処分又は指示に違反した場合
  - 二 補助事業者が補助金を補助事業以外の用途に使用した場合
  - 三 補助事業者が、補助事業に関して不正、怠慢その他不適当な行為をした場合
  - 四 前各号に掲げる場合のほか、交付の決定後生じた事情の変更により、補助事業の全部若しくは一部を継続する必要がなくなった場合
  - 五 補助事業者が、別紙暴力団排除に関する誓約事項に違反した場合

- 2 前項の規定は、第14条に規定する補助金の額の確定があった後においても適用があるものとする。
- 3 知事は、第1項に基づく取消し又は変更をしたときは、速やかに補助事業者へ通知するものとする。
- 4 知事は、第1項の規定による取消しをした場合において、その取消しに係る部分に関し、既に補助金が交付されているときは、期限を付して当該補助金の全部若しくは一部の返還を請求するものとする。
- 5 知事は、前項の返還を請求したときは、第1項第4号に規定する場合を除き、当該補助金の受領の日から納付の日までの日数に応じて、当該補助金の額（その一部を納付した場合におけるその後の期間については、既納付額を控除した額）につき年利10.95パーセントの割合で計算した加算金を併せて当該補助事業者から徴収するものとする。
- 6 第4項の規定に基づく補助金の返還については、第14条第4項から同条第6項の規定を準用する。この場合において、第14条第5項中「様式第11」とあるのは、「様式第14」と読み替えるものとする。

#### （加算金の計算）

- 第18条 知事は、補助金が2回以上に分けて交付されている場合においては、返還を請求した額に相当する補助金は、最後の受領の日を受領したものとし、当該返還を請求した額がその日に受領した額を超えるときは、当該返還を請求した額に達するまで順次さかのぼり、それぞれの受領の日において受領したものとして当該返還に係る加算金を徴収するものとする。
- 2 知事は、加算金を徴収する場合において、補助事業者の納付した金額が返還を請求した補助金の額に達するまでは、その納付金額は、まず当該返還を請求した補助金の額に充てるものとする。

#### （延滞金の計算）

- 第19条 知事は、延滞金を徴収する場合において、返還を請求した補助金の未納付額の一部が納付されたときは、当該未納付金からその納付金額を控除した額を基礎として当該納付の日の翌日以後の期間に係る延滞金の計算をするものとする。
- 2 前条第2項の規定は、前項の延滞金を徴収する場合に準用する。

#### （財産の管理等）

- 第20条 補助事業者は、取得財産等については、当該事業の完了後においても善良な管理者の注意をもって管理し、補助金の交付の目的に従って、その効率的運用を図らなければならない。
- 2 補助事業者は、取得財産等について様式第15による取得財産等管理台帳を備え、管理するとともに、当該年度に取得財産等があるときは、様式第15による取得財産等管理台帳を第12条第1項に定める実績報告書に添付して知事に提出しなければならない。
  - 3 知事は、補助事業者が取得財産等を処分することにより、収入があり、又はあると認められるときは、その収入の全部若しくは一部を福島県に納付させることができるものとする。

#### （財産処分の制限等）

- 第21条 取得財産等のうち、処分を制限する財産は、取得価格又は効用の増加価格が単価50万円

以上の機械、器具、備品及びその他の財産とする。

- 2 取得財産等の処分を制限する期間は、補助金の交付の目的及び減価償却資産の耐用年数等に関する省令(昭和40年大蔵省令第15号)に定める耐用年数を勘案して知事が別に定める期間とする。
- 3 補助事業者は、前項の規定により定められた期間内において、処分を制限された取得財産等を処分しようとするときは、あらかじめ、様式第16による財産処分承認申請書を知事に提出し、その承認を受けなければならない。
- 4 前条第3項の規定は、前項の承認をする場合において準用する。
- 5 第2項の規定により定められた期間を経過した取得財産等を処分することにより得た収入については、前条第3項の規定は適用しない。

(暴力団排除に関する誓約)

第22条 補助事業者は、別紙記載の暴力団排除に関する誓約事項について補助金の交付申請前に確認しなければならない。交付申請書の提出をもってこれに同意したもとする。

(補助事業の経理等)

第23条 補助事業者は、補助事業の経理について補助事業以外の経理と明確に区分し、帳簿及び証拠書類を整備し、常にその収支の状況を明らかにしておくとともに、その会計帳簿及び収支に関する証拠書類を、補助事業が完了した日又は補助事業の廃止の承認があった日の属する会計年度の終了後5年間保存しなければならない。

(補助金調書)

第24条 補助事業者が地方公共団体にあつては、当該補助事業に係る歳入歳出の予算書及び決算書における計上科目及び科目別計上金額を明らかにするため、様式第17による調書を作成しなければならない。

附 則

この要綱は、平成27年5月14日から施行する。

別記(第3条関係)

再生可能エネルギー発電設備等導入基盤整備支援事業費補助金(福島県再エネ復興支援事業)  
実施計画書の要件

- 一 設備導入事業の内容の費用効率が高いこと。
- 二 設備導入事業の遂行によって、当該地域の復興及び再生に貢献する見込みがあること。
- 三 実施計画書に係る事業の実施の計画が確実かつ合理的であること。

## 別表第1

## 事業対象地域

市町村名	町丁・大字
福島県 田村市	都路町岩井沢、都路町古道、常葉町堀田、常葉町山根、船引町中山、船引町横道
福島県 南相馬市	鹿島区 大内、小島田、烏崎、川子、南右田
	原町区 青葉町、旭町、東町、石神、泉、牛越、大谷、大木戸、大町、小川町、押釜、萱浜、金沢、上太田、上北高平、上渋佐、上高平、上町、北泉、北長野、北新田、北原、北町、国見町、牛来、栄町、桜井町、信田沢、下太田、下北高平、下渋佐、下高平、高見町、中太田、長野、仲町、錦町、西町、橋本町、日の出町、深野、二見町、本陣前、益田、三島町、南町、本町、矢川原、江井、大原、大甕、小木迫、小沢、小浜、雫、下江井、高、堤谷、鶴谷、米々沢、片倉、高倉、馬場
	小高区 泉沢、井田川、浦尻、上根沢、蛭沢、大井、大町、岡田、小高、女場、小谷、片草、上浦、上町、北鳩原、小屋木、下浦、関場、田町、塚原、角部内、仲町、行津、西町、羽倉、飯崎、東町、福岡、藤木、水谷、南小高、南鳩原、南町、耳谷、村上、本町、吉名、大富、大田和、神山、川房、金谷
伊達郡 川俣町	山木屋
双葉郡 広野町	大字折木、大字上浅見川、大字上北迫、大字下浅見川、大字下北迫、大字夕筋、中央台、広洋台
双葉郡 檜葉町	大字井出、大字大谷、大字上小埜、大字上繁岡、大字北田、大字下小埜、大字下繁岡、大字波倉、大字前原、大字山田岡、大字山田浜
双葉郡 富岡町	大字毛萱、大字下郡山、大字上郡山、大字上手岡、小浜、大字小浜、大字仏浜、中央、本町、大字大菅、大字小良ヶ浜、大字本岡、字夜の森、桜
双葉郡 川内村	大字上川内、大字下川内
双葉郡 大熊町	大字大川原、大字夫沢、大字小良浜、大字熊、大字熊川、大字小入野、大字下野上、大字野上
双葉郡 双葉町	大字中野、大字中浜、大字両竹、大字石熊、大字上羽鳥、大字鴻草、大字郡山、大字渋川、大字下羽鳥、大字新山、大字寺沢、大字中田、大字長塚、大字細谷、大字前田、大字松倉、大字松迫、大字水沢、大字目迫、大字山田
双葉郡 浪江町	大字請戸、大字北幾世橋、大字幾世橋、大字権現堂、大字高瀬、大字棚塩、大字中浜、大字西台、大字藤橋、大字両竹、大字牛渡、大字小野田、大字加倉、大字荻宿、大字川添、大字酒田、大字田尻、大字立野、大字樋渡、大字谷津田、大字赤宇木、大字井手、大字大堀、大字小丸、大字川房、大字酒井、大字下津島、大字末森、大字津島、大字羽附、大字昼曾根、大字南津島、大字室原
双葉郡 葛尾村	大字上野川、大字野川、大字落合、大字葛尾
相馬郡 飯舘村	芦原、大倉、佐須、須萱、二枚橋、八木沢、飯樋、伊丹沢、臼石、草野、小宮、関沢、関根、沼平、比曾、深谷、前田、松塚、蕨平、長泥



## 別表第2

## 補助対象経費

## 1 発電設備

区分	内容	補助率
(1) 設計費	設備導入事業に必要な機械装置等の設計費	1/10 以内 (ただし、福島県内に本社を有する中小企業者は1/5以内)
(2) 設備費	設備導入事業に必要な機械装置等の購入、製造、据付等に必要な経費 (ただし、土地の取得及び賃借料を除く。)	
(3) 工事費	設備導入事業の実施に必要不可欠な配管等の工事に必要な経費	
(4) 諸経費	設備導入事業を行うために直接必要なその他経費	

## 2 蓄電池及び送電線

区分	内容	補助率
(1) 設計費	設備導入事業に必要な機械装置等の設計費	2/3 以内
(2) 設備費	設備導入事業に必要な機械装置等の購入、製造、据付等に必要な経費 (ただし、土地の取得及び賃借料を除く。)	
(3) 工事費	設備導入事業の実施に必要不可欠な配管等の工事に必要な経費	
(4) 諸経費	設備導入事業を行うために直接必要なその他経費	

## 別表第3

## 規模要件

(1) 太陽光発電	太陽電池一地点出力50kW以上
(2) 風力発電	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発電出力：500kW以上</li> <li>・風況精査 1年間以上の風況観測を実際に実施していること。 (観測地点は、単機の場合風車の設置予定地点、複数機の場合は当該地域の代表的な風況特性を取得できる地点とすることを原則とする)</li> </ul>
(3) バイオマス発電	<p>(1)バイオマス依存率：60%以上</p> <p>(2)発電効率等</p> <p>①蒸気タービン方式</p> <p style="padding-left: 20px;">発電出力1万kW以上：発電効率20%以上</p> <p style="padding-left: 20px;">発電出力1万kW未満：発電効率10%以上</p> <p>②その他発電方式</p> <p style="padding-left: 20px;">発電効率：25%以上</p> <p style="padding-left: 20px;">発電出力：50kW以上</p>
(4) 水力発電	発電出力：1,000kW以下（システムの定格出力でkW単位の小數切捨）
(5) 地熱発電	規模要件なし
(6) 蓄電池	定格出力：発電設備の発電出力の同等以下
(7) 送電線	規模要件なし

## 別紙

### 暴力団排除に関する誓約事項

当社（個人である場合は私、団体である場合は当団体）は、補助金の交付の申請をするにあたって、また、補助事業の実施期間内及び完了後においては、下記のいずれにも該当しないことを誓約いたします。

この誓約が虚偽であり、又はこの誓約に反したことにより、当方が不利益を被ることとなっても、異議は一切申し立てません。

- 一 法人等（個人、法人又は団体をいう。）が、暴力団（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第2号に規定する暴力団をいう。以下同じ。）であるとき又は法人等の役員等（個人である場合はその者、法人である場合は役員、団体である場合は代表者、理事等、その他経営に実質的に関与している者をいう。以下同じ。）が、暴力団員（同法第2条第6号に規定する暴力団員をいう。以下同じ。）であるとき
- 二 役員等が、自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を加える目的をもって、暴力団又は暴力団員を利用するなどしているとき
- 三 役員等が、暴力団又は暴力団員に対して、資金等を供給し、又は便宜を供与するなど直接的あるいは積極的に暴力団の維持、運営に協力し、若しくは関与しているとき
- 四 役員等が、暴力団又は暴力団員であることを知りながらこれと社会的に非難されるべき関係を有しているとき

様式第 1

番 号  
平成 年 月 日

福島県知事 様

住 所  
申請者 名 称  
代表者等名 印

平成 年度再生可能エネルギー発電設備等導入基盤整備支援事業費補助金  
(福島県再エネ復興支援事業) 補助金交付申請書

再生可能エネルギー発電設備等導入基盤整備支援事業費補助金(福島県再エネ復興支援事業)交付要綱5条第1項の規程に基づき、下記のとおり補助金の交付を申請します。

なお、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律(昭和30年法律第179号)、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律施行令(昭和30年政令第255号)、再生可能エネルギー発電設備等導入基盤整備支援事業実施要領(20150305財資第18号)、福島県補助金等の交付等に関する規則(昭和45年福島県規則第107号)、再生可能エネルギー発電設備等導入基盤整備支援事業費補助金(福島県再エネ復興支援事業)交付要綱の定めるところに従うことを承知の上申請します。

記

1 補助事業の名称

2 補助事業の目的

3 補助事業の開始及び完了予定日

交付決定日 ~ 平成 年 月 日

4 設備導入事業の内容

(1) 補助事業の内容

(2) 補助事業の実施計画

(3) 補助金交付申請額

ア 補助事業に要する経費(8%消費税込) 円

イ 補助対象経費 円

ウ 補助金交付申請額 円

(4) 補助事業に要する経費の配分(別紙1)

(5) 補助事業に要する経費の四半期別発生予定額(別紙2)

(6) 申請者の役員等名簿(別紙3)

## 別紙 1

## 補助事業に要する経費の配分

(単位：円)

区 分	補助事業に 要する経費	補助対象経費	補助率	補助金の額
発電設備			1/10以内 (福島県内に本社 を有する中小企業 者は1/5以内)	
蓄電池及び送電線			2/3以内	
消費税 (8%)				
合 計				

(注1) 当該年度事業に係る経費を記入すること。  
(注2) 金額については円単位とし、端数は切り捨てること。

## 別紙 2

## 補助事業に要する経費の四半期別発生予定額

(単位：円)

区 分	補助事業に要する経費				
	第1・四半期	第2・四半期	第3・四半期	第4・四半期	計
発電設備					
蓄電池及び送電 線					
消費税 (8%)					
合 計					

(注1) 当該年度事業に係る経費を記入すること。  
(注2) 金額については円単位とし、端数は切り捨てること。  
(注3) 第1四半期(4~6月)、第2四半期(7~9月)、第3四半期(10~12月)、第4四半期(1~3月)

## 別紙 3

## 申請者の役員等名簿

氏名 (カナ)	氏名 (漢字)	生年月日				性別	会社名	役職名
		和暦	年	月	日			

(注) 役員名簿については、氏名カナ（半角、姓と名の間も半角で1マス空け）、氏名漢字（全角、姓と名の間も全角で1マス空け）、生年月日（半角で大正は T、昭和は S、平成は H、数字は2桁半角）、性別（半角で男性は M、女性は F）、会社名及び役職名を記載する。

法人にあつては名称  
及び代表者の氏名 宛て

福島県知事 印

平成 年度再生可能エネルギー発電設備等導入基盤整備支援事業費補助金  
(福島県再エネ復興支援事業) 交付決定通知書

平成 年 月 日付け第 号をもって申請のありました再生可能エネルギー発電設備等導入基盤整備支援事業費補助金(福島県再エネ復興支援事業)については、再生可能エネルギー発電設備等導入基盤整備支援事業費補助金(福島県再エネ復興支援事業) 交付要綱第 6 条 1 項の規定に基づき下記のとおり交付することに決定しましたので、通知します。

記

1 補助金の交付の対象となる事業の内容は、平成 年 月 日付け第 号で申請のありました平成 年度再生可能エネルギー発電設備等導入基盤整備支援事業費補助金(福島県再エネ復興支援事業) 交付申請書(以下「交付申請書」という。)記載のとおりとします。

2 補助事業に要する経費、補助対象経費及び補助金の額は、次のとおりとします。

補助事業に要する経費	円
補助対象経費	円
補助金の額	円

ただし、補助事業の内容が変更された場合における補助事業に要する経費、補助対象経費及び補助金の額については、別に通知するところによるものとします。

3 補助対象経費の配分及びこの配分された経費に対応する補助金の額は、交付申請書記載のとおりとします。

4 補助金の額の確定は、補助対象経費の区分ごとに配分された経費の実支出額に補助率を乗じて得た額と配分された経費ごとに対応する補助金の額とのいずれか低い額の合計額とします。

5 (補助事業者名) は、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律(昭和 30 年法律第 17 9 号)(以下「適正化法」という。)、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律施行令(昭和 30 年政令第 255 号)、再生可能エネルギー発電設備等導入基盤整備支援事業実施要領(20150305 財資第 18 号)(以下「実施要領」という。)、福島県補助金等の交付等に関する規則(昭和 45 年福島県規則第 107 号)、再生可能エネルギー発電設備等導入基盤整備支援事業費補助金(福島県再エネ復興支援事業) 交付要綱の定めるところに従わなければなりません。

なお、これらの規定に違反する行為がなされた場合、次の措置が講じられ得ることに留意してください。

(1) 適正化法第 17 条第 1 項若しくは第 2 項の規定による交付決定の取消し、第 18 条第 1 項の規

- 定による補助金等の返還又は第19条第1項の規定による加算金の納付
- (2) 適正化法第29条から第32条までの規定による罰則
  - (3) 相当の期間補助金等の全部又は一部の交付決定を行わないこと。
  - (4) 福島県の所管する契約について、一定期間指名等の対象外とすること。
  - (5) 補助事業者等の名称及び不正の内容の公表

6 補助金に係る消費税及び地方消費税相当額については、交付要綱の定めるところにより、消費税及び地方消費税仕入控除税額が明らかになった場合には、当該消費税及び地方消費税仕入控除税額を減額することとなります。



福島県知事 様

補助事業者 住所  
氏名 法人にあつては名称  
及び代表者の氏名 印

平成 年度再生可能エネルギー発電設備等導入基盤整備支援事業費補助金  
(福島県再エネ復興支援事業) 遅延等報告書

平成 年度再生可能エネルギー発電設備等導入基盤整備支援事業費補助金(福島県再エネ復興支援事業) 交付要綱第 7 条第 1 項第 2 号の規定に基づき、補助事業の遅延について下記のとおり報告します。

記

- 1 補助事業の名称
- 2 遅延の原因及び内容
- 3 遅延に係る金額 円
- 4 遅延に対して採った措置
- 5 遅延が補助事業に及ぼす影響
- 6 補助事業の遂行及び完了予定日

様式第 4

番 号  
年 月 日

福島県知事 様

補助事業者 住所  
氏名 法人にあつては名称  
及び代表者の氏名 印

平成 年度再生可能エネルギー発電設備等導入基盤整備支援事業費補助金  
(福島県再エネ復興支援事業) 交付申請取下げ届出書

平成 年 月 日付け 第 号をもって交付の決定があつた上記補助金について、  
再生可能エネルギー発電設備等導入基盤整備支援事業費補助金(福島県再エネ復興支援事業) 交付要  
綱第 8 条の規定に基づき、交付申請を取下げます。

記

- 1 補助事業の名称
- 2 交付の申請の取下げ理由
- 3 取り下げられた交付の申請に係る補助対象経費及び補助金の額
  - (1) 補助対象経費
  - (2) 補助金の額

福島県知事 様

補助事業者 住所  
氏名 法人にあつては名称  
及び代表者の氏名 印

平成 年度再生可能エネルギー発電設備等導入基盤整備支援事業費補助金  
(福島県再エネ復興支援事業) 変更 (中止・廃止) 承認申請書

再生可能エネルギー発電設備等導入基盤整備支援事業費補助金 (福島県再エネ復興支援事業) 交付要綱第 9 条第 1 項の規定により、事業計画を変更 (中止・廃止) したいので、承認して下さるよう申請します。

記

- 1 交付決定年月日等  
年 月 日付け福島県指令 第 号
- 2 補助金交付申請額  
(1) 今回交付申請額 \_\_\_\_\_ 円  
(2) 既交付決定額 \_\_\_\_\_ 円  
(3) 差引額((1)-(2)) \_\_\_\_\_ 円
- 3 変更後の補助事業に要する経費、補助対象経費及び補助金の配分額  
(新旧対比)
- 4 変更 (中止・廃止) の内容
- 5 変更 (中止・廃止) を必要とする理由
- 6 変更 (中止・廃止) が補助事業に及ぼす影響

福島県知事 様

補助事業者 住所  
氏名 法人にあつては名称  
及び代表者の氏名 印

平成 年度再生可能エネルギー発電設備等導入基盤整備支援事業費補助金  
(福島県再エネ復興支援事業) 補助金概算払請求書

再生可能エネルギー発電設備等導入基盤整備支援事業費補助金(福島県再エネ復興支援事業) 交  
付要綱第 10 条第 2 項の規定に基づき、下記のとおり請求します。

記

- 1 補助事業の名称
- 2 概算払請求金額 (算用数字を使用すること。) 円
- 3 請求金額の算出内訳
- 4 概算払を必要とする理由
- 5 振込先金融機関名、支店名、預金の種別、口座番号及び預金の名義を記載すること。

(注) 別紙「概算払請求内訳書」を添付すること。

別紙

請求金額の内訳

(単位：円)

区分	補助対象経費の額			補助率	補助金の額		
	配分済額	実績額 (年月日～年月日)	支出見込額 (年月日～年月日)		配分済額	前回までの受領額	今回請求額
合計							

様式第 7

番 号  
年 月 日

福島県知事 様

補助事業者 住所  
氏名 法人にあつては名称  
及び代表者の氏名 印

平成 年度再生可能エネルギー発電設備等導入基盤整備支援事業費補助金  
(福島県再エネ復興支援事業) 実施状況報告書

再生可能エネルギー発電設備等導入基盤整備支援事業費補助金(福島県再エネ復興支援事業)交  
付要綱第 1 1 条の規定に基づき、下記のとおり報告します。

記

- 1 補助事業の名称
- 2 補助事業の遂行状況
- 3 補助対象経費の区分別収支概要(別紙)

別紙

補助対象経費の区分別収支概況

(単位：円)

区 分	補助対象経費		
	配分済額	実績額 (年月日～年月日)	支出見込額 (年月日～年月日)
合 計			

福島県知事 様

補助事業者 住所  
氏名 法人にあっては名称  
及び代表者の氏名 印

平成 年度再生可能エネルギー発電設備等導入基盤整備支援事業費補助金  
(福島県再エネ復興支援事業) 補助事業実績報告書

再生可能エネルギー発電設備等導入基盤整備支援事業費補助金(福島県再エネ復興支援事業) 交付要綱第 12 条第 1 項の規定に基づき、下記のとおり報告します。

記

- 1 実施した補助事業
  - (1) 補助事業の内容
  - (2) 重点的に実施した事項
  - (3) 補助事業の効果

2 補助事業の収支決算

(1) 収 入 (単位：円)

項 目	金 額
自 己 資 金 補助金充当額	
合 計	

(2) 支 出  
ア 総括表 (単位：円)

区 分	補 助 事 業 に 要 した 経 費		補 助 対 象 経 費				補助金充当額	
	計画額	実績額	計画額	流用額	流用後額	実績額	交 付 決 定 額	実績額
合 計								

イ 経費の内訳 (各経費の配分ごとの実績の内訳を記載)

(注 1) 当該年度に財産を取得しているときは、交付要綱第 20 条第 2 項の規定に基づき、様式第 15 による取得財産等管理台帳を添付することとする。

(注 2) 消費税及び地方消費税に係る仕入控除税額を減額して報告する場合は、次の算式を明記すること。 補助金所要額 - 消費税及び地方消費税に係る仕入控除税額 = 補助金額



福島県知事 様

補助事業者 住所  
氏名 法人にあっては名称  
及び代表者の氏名 印

平成 年度再生可能エネルギー発電設備等導入基盤整備支援事業費補助金

(福島県再エネ復興支援事業) 補助事業年度末実績報告書

再生可能エネルギー発電設備等導入基盤整備支援事業費補助金(福島県再エネ復興支援事業) 交付要綱第12条第2項の規定に基づき、下記のとおり報告します。

記

1 実施した補助事業

- (1) 補助事業の内容
- (2) 重点的に実施した事項
- (3) 補助事業の効果

2 補助事業の収支決算

(1) 収 入 (単位:円)

項 目	金 額
自 己 資 金 補助金充当額	
合 計	

(2) 支 出  
ア 総括表 (単位:円)

区 分	補 助 事 業 に 要 した 経 費		補 助 対 象 経 費				補 助 金 充 当 額	
	計 画 額	実 績 額	計 画 額	流 用 額	流 用 後 額	実 績 額	交 付 決 定 額	実 績 額
合 計								

イ 経費の内訳 (各経費の配分ごとの実績の内訳を記載)

(注) 消費税及び地方消費税に係る仕入控除税額を減額して報告する場合は、次の算式を明記すること。 補助金所要額－消費税及び地方消費税に係る仕入控除税額＝補助金額

福島県知事 様

補助事業者 住所  
氏名 法人にあつては名称  
及び代表者の氏名 印

平成 年度再生可能エネルギー発電設備等導入基盤整備支援事業費補助金  
(福島県再エネ復興支援事業) 承継承認申請書

平成 年 月 日付け 第 号をもって交付決定のあつた再生可能エネルギー  
発電設備等導入基盤整備支援事業費補助金(福島県再エネ復興支援事業) 交付要綱第13条の規定  
に基づき、補助金に係る補助事業の地位を承継し、当該補助事業を継続して実施したいので、下記  
のとおり報告します。

記

- 1 交付を決定した補助事業者名(旧補助事業者名)
- 2 補助事業の名称
- 3 補助事業の内容
- 4 補助事業の地位の承継理由
- 5 補助金交付決定通知の日付及び番号
- 6 交付決定通知書に掲げられた補助金の額
- 7 既に交付を受けている補助金の額

福島県知事 様

補助事業者 住所  
氏名 法人にあつては名称  
及び代表者の氏名 印

平成 年度再生可能エネルギー発電設備等導入基盤整備支援事業費補助金  
(福島県再エネ復興支援事業) 返還報告書 (確定に係るもの)

平成 年 月 日付け 第 号をもって交付決定のあつた平成 年度再生可能エネルギー発電設備等導入基盤整備支援事業費補助金 (福島県再エネ復興支援事業) 交付要綱第 1 4 条第 5 項に基づく、上記国庫補助金に係る額の確定を受けたことに伴い、既に交付を受けている国庫補助金のうち、当該確定額を超える部分について返還したので、下記のとおり報告します。

記

- 1 補助事業の名称
- 2 補助金確定通知額及び年月日 円 (平成 年 月 日)
- 3 既に交付を受けている補助金の額 円
- 4 返還を請求された金額及び年月日 円 (平成 年 月 日)
- 5 返還すべき金額 円
- 6 返還した金額及び年月日
  - (1) 返還金 円 (平成 年 月 日)
  - (2) 加算金 (延滞金) 円 (平成 年 月 日)
- 7 延滞金の算出根拠
- 8 未返還金額
  - (1) 返還金 円
  - (2) 加算金 (延滞金) 円

様式第 1 2

番 号  
年 月 日

福島県知事 様

補助事業者 住所  
氏名 法人にあつては名称  
及び代表者の氏名 印

平成 年度再生可能エネルギー発電設備等導入基盤整備支援事業費補助金  
(福島県再エネ復興支援事業) 補助金精算払請求書

再生可能エネルギー発電設備等導入基盤整備支援事業費補助金(福島県再エネ復興支援事業) 交付要綱第 1 5 条第 2 項の規定に基づき、下記のとおり請求します。

記

1 補助事業の名称

2 精算払請求金額 (算用数字を使用すること。) 円

3 振込先金融機関名、支店名、預金の種別、口座番号及び預金の名義を記載すること。

福島県知事 様

補助事業者 住所  
氏名 法人にあつては名称  
及び代表者の氏名 印

平成 年度再生可能エネルギー発電設備等導入基盤整備支援事業費補助金（福島県  
再エネ復興支援事業）消費税額及び地方消費税額の額の確定に伴う報告書

再生可能エネルギー発電設備等導入基盤整備支援事業費補助金（福島県再エネ復興支援事業）交  
付要綱第 1 6 条第 1 項の規定に基づき、下記のとおり報告します。

記

- |   |   |
|---|---|
| 1 補助金額（交付要綱第 1 4 条第 1 項による額の確定額）                  | 円 |
| 2 補助金の確定時における消費税及び地方消費税に係る<br>仕入控除税額              | 円 |
| 3 消費税額及び地方消費税額の確定に伴う補助金に係る<br>消費税及び地方消費税に係る仕入控除税額 | 円 |
| 4 補助金返還相当額（3. - 2.）                               | 円 |

（注）別紙として積算の内訳を添付すること。

福島県知事 様

補助事業者 住所  
氏名 法人にあつては名称  
及び代表者の氏名 印

平成 年度再生可能エネルギー発電設備等導入基盤整備支援事業費補助金  
(福島県再エネ復興支援事業) 返還報告書 (取消に係るもの)

平成 年 月 日付け 第 号をもって交付決定のあつた平成 年度再生可能エネルギー発電設備等導入基盤整備支援事業費補助金 (福島県再エネ復興支援事業) 交付要綱第 17 条第 6 項に基づく、上記国庫補助金に係る額の確定を受けたことに伴い、既に交付を受けている国庫補助金のうち、当該確定額を超える部分について返還したので、下記のとおり報告します。

記

- 1 補助事業の名称
- 2 補助金確定通知額及び年月日 円 (平成 年 月 日)
- 3 既に交付を受けている補助金の額 円
- 4 返還を請求された金額及び年月日 円 (平成 年 月 日)
- 5 返還すべき金額 円
- 6 返還した金額及び年月日
  - (1) 返還金 円 (平成 年 月 日)
  - (2) 加算金 (延滞金) 円 (平成 年 月 日)
- 7 延滞金の算出根拠
- 8 未返還金額
  - (1) 返還金 円
  - (2) 加算金 (延滞金) 円

様式第 15

取得財産等管理台帳

区分	財産名	規格	数量	単価	金額	取得年月日	耐用年数	保管場所	補助率	備考
				円	円					

- (注) 1 対象となる取得財産等は、取得価格又は効用の増加価格が本交付要綱第 21 条第 1 項に定める処分制限額以上の財産とする。
- 2 財産名の区分は、(ア) 事務用備品、(イ) 事業用備品、(ウ) 書籍、資料、図書類、(エ) 無体財産権 (産業財産権等)、(オ) その他の物件 (不動産及びその従物) とする。
3. 数量は、同一規格等であれば一括して記載して差し支えない。単価が異なる場合は分割して記載すること。
4. 取得年月日は、検収年月日を記載すること。

福島県知事 様

補助事業者 住所  
氏名 法人にあつては名称  
及び代表者の氏名 印

平成 年度再生可能エネルギー発電設備等導入基盤整備支援事業費補助金  
(福島県再エネ復興支援事業) 財産処分承認申請書

再生可能エネルギー発電設備等導入基盤整備支援事業費補助金(福島県再エネ復興支援事業) 交付  
要綱第21条第3項の規定に基づき、下記のとおり申請します。

記

1 処分の内容

(1) 処分する財産名等(別紙) ※取得財産管理台帳の該当財産部分抜粋等

(2) 処分の内容(有償・無償の別も記載のこと。)及び処分予定日  
処分の相手方(住所、氏名又は名称、使用の目的等)

2 処分理由



